

2016年度学院留学 研究成果概要

種 別： 学院留学（短期）
所属・職・氏名： 司法研究科・教授・丸田 隆
研究課題： 刑事陪審制度の実務的改革の実情研究－裁判員制度との対比
留学期間： 2016年9月1日～2017年3月10日
留学先： アメリカ合衆国・ニューヨーク市・ニューヨーク大学（NYU）
ロースクール

*

研究成果概要

2016年9月1日より約180日間、ニューヨーク大学（NYU）のロースクールのフランク・アップム（Frank Upham）教授の受け入れにより、アジア法研究所（US-ASIA LAW INSTITUTE）の客員研究員として過ごさせていただいた。同研究所は、その80パーセント以上が中国人であり、日本人と韓国人は20パーセントに満たなかった。中国の経済的影響力だけでなく、アジア法研究における存在の大きさを認識させられた。

9月1日にニューヨークに着くなり、えん罪を訴える在監者の救済方法を学ぶ **Wrongful Conviction** というプログラムへの参加を求められた。このプログラムは、えん罪の原因分析だけでなく、えん罪被害者救済をどのように行うかという極めて実務的なものであった。その一環として、公設弁護士事務所、裁判所、えん罪被害者の救済を目的とした非政府組織の **Innocence Project** や科学鑑識課（**Office of Chief Medical Examiner of NYC**、日本の科学警察研究所のようなもの）、**NYPD** 警察署などを訪問し、現場の第一線の人たちの説明を受けるという大変貴重な機会を持つことができた。

とくに衝撃的だった体験は、殺人のえん罪で無罪を訴えたまま21年間も刑務所に収監され、ついに有罪の決め手となった証言が偽証だと判明して釈放されたデレック・ハミルトンさんの話であった。彼は、刑務所内の図書館で法律書を読み漁り（アメリカの刑務所は図書館が充実している）、自分で勉強をして、裁判所に申し立てをし、様々なところに手紙を書き、ついに20年目の再審でえん罪が晴れて無罪釈放となった。彼は収監中に無罪を訴えている同じ獄中にいる囚人の法律相談に応じたり、裁判所への申し立てを代筆したりしていたという。彼自身の容疑が晴れて釈放された時に、彼は刑務所に残された仲間、きっと救い出すために戻るからと約束した。釈放後も彼は法律の勉強を続け、自分を救ってくれた弁護士事務所のパラリーガル（法律秘書）として就職し、弁護士とともに仲間の救済に当たってい

るということであった。ニューヨークは死刑制度がないためこのような長期にわたる冤罪の立証が可能であったが、死刑のある州であればもうとっくに処刑されていただろうから自分はラッキーであったという言葉は、ずしんと重く響くものであった。

このプログラムを通じて、O.J.シンプソン裁判の弁護人を務めたバリー・シェック弁護士とも知り合いになれた。彼はハリウッドの映画スターの弁護をしながら得た収入をもっぱら上記のInnocence Projectに注ぎ込んでいるなかなかの人物である。

ニューヨーク大学アジア法研究所では、客員研究員には全員、研究の中間報告と帰国前の最終報告を義務づけている。そのためお互いにどういう研究をしているか分かるし、自分の探求しているテーマの進捗状況についての説明や対応が迫られるので、これは大変良い制度であると感じた。研究報告会は、研究所のメンバーだけでなく、ロースクールの教員らも参加できるオープンなものになっており、それぞれの専門家から多様な意見を受けることができた。私自身も2回の報告のためにパワーポイントと配布用のアウトラインの準備のために相当時間を取られたが、これもこういう機会がなければしなかつたろうと思われた。このほかにも、2016年秋にコーネル・ロースクールから招かれて日本の裁判員と死刑について話をして行ってきた。死刑制度を持っている経済的先進国はアメリカと日本くらいなために日本の死刑制度には大変高い関心が寄せられた。

私自身が持って行った研究課題の「刑事陪審制度の実務的改革の実情研究－裁判員制度との対比」については、結局、「死刑陪審と死刑裁判員の問題」として英文論文をまとめている。

出発前は、州内だけでなく、アメリカ南部州の裁判所などを訪問する予定でいたが、結局、時間が取れずどこにも行かずじまいであった。ニューヨークについて、帰国までほぼ土曜日、日曜日に関係なく、朝930から夜700までずっと与えられた研究所のスペースで仕事をするというまじめな生活を送ることができた。このような機会を学院から頂いたことに大変感謝している。なお、この研究滞在中の研究成果は来年初めに単行本として刊行されることになっている。

研究成果概要のデータは、gakunai@kwansei.ac.jpまで提出してください。